

2024年のスギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告：副会長 沖中 芳彦]

2023年の夏は観測史上最も暑い夏でしたが、今シーズン前の定点木の観察では、意外にもスギはかなり少ない着花状態であり、スギ花粉飛散総数は県内測定機関の平均値として1,300個/cm²程度で平年を下回ると予測しました。実測値は1,940個/cm²と予測の1.5倍でしたが、平年値(直近10年間の平均値:3,260個/cm²)の60%弱の値となりました(図1)。飛散開始日は1測定機関のみ1月18日に早々と定義に該当しましたので、山口県医師会花粉情報委員会の規約により、同日を山口県のスギ花粉飛散開始日としましたが、県内の他地区では、2月8日から13日にかけて、定義に該当しました。最多飛散日は全体の平均では2月24日でした。シーズン飛散総数が最多であったのは美祢地区の測定機関の4,197個/cm²、最少は岩国地区の709個/cm²でした(図2)が、史上最多の花粉数を記録した昨シーズンのそれぞれ美祢地区の測定機関の11,482個/cm²、防府地区の3,509/cm²と比べるとかなり少ない値でした。特に、近年は花粉数が多く、平均値を引き上げる北部地区で、平均値以下の測定機関が半数以上存在したことが、今シーズンの状況をよく表していると思います。

一方ヒノキも、542個/cm²(平年値1,920個/cm²の30%弱)と、かなり少ない飛散総数となりました(図1)。飛散開始日は3月8日、最多飛散日は3月30日でした。最多飛散は萩地区で1,159個/cm²、最少は下関地区の253個/cm²(図3)で、昨年のそれぞれ長門地区の16,319個/cm²、山陽小野田地区の1,544個/cm²と比べると、スギ以上に少な

い比率でした。

昨年夏の猛暑から今シーズンの花粉飛散も多くなるのではないかとということが、スギの木の定点観察前には懸念されましたが、予測より数値は多くなったものの、平年以下であることは予測することができました。今シーズンの結果により、来シーズンを迎えるにあたってのスギ花粉総数の平年値は3,200個/cm²となります(図4)。

測定機関の皆様には、今シーズンも長期間にわたる花粉数のカウントを、誠にありがとうございました。

以前にも述べたことがありますが、近年は実測値が予測値を上回ることが多くなっています。ここ20年位で、平年値が1.7倍程度に増えてきています(図4)ので、県内全体で花粉をたくさん産生する樹齢の樹が増えてきているのではないかと思います。一方で私の観察木は古いものでは30年近く見てきている木々ですが、枝が枯れてきたものもあり、高齢による衰えから雄花をつけにくくなっているのかもしれない、対応に苦慮しています。果たして来シーズンの予測はどうなるでしょうか。

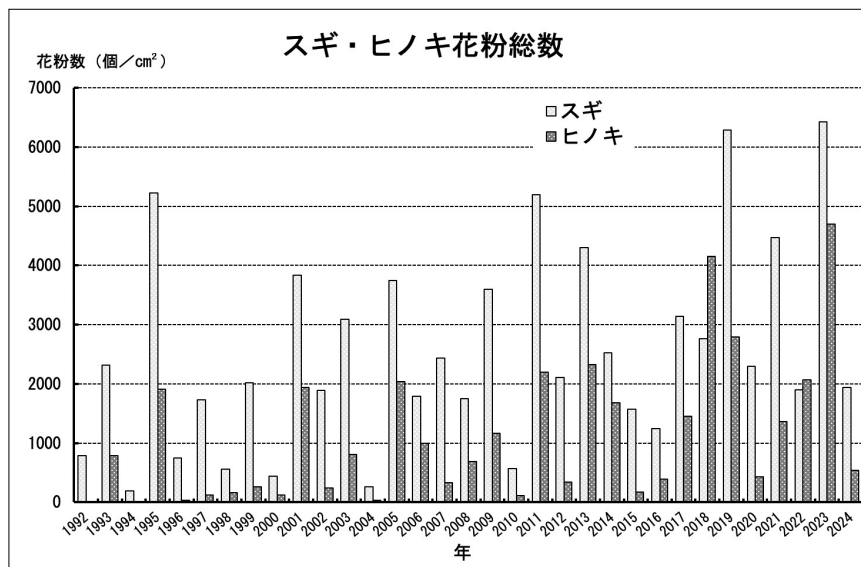


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数 2024

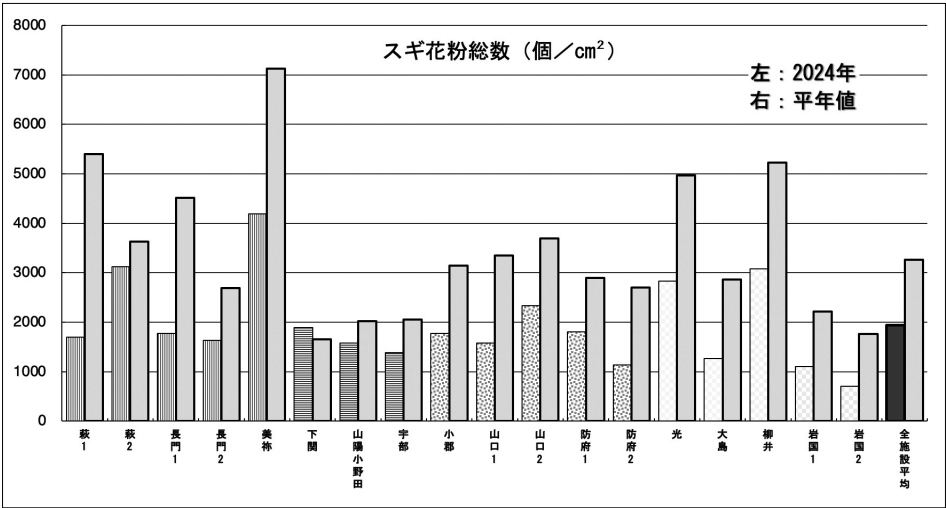


図2 測定機関別スギ花粉総数（平年値との比較）

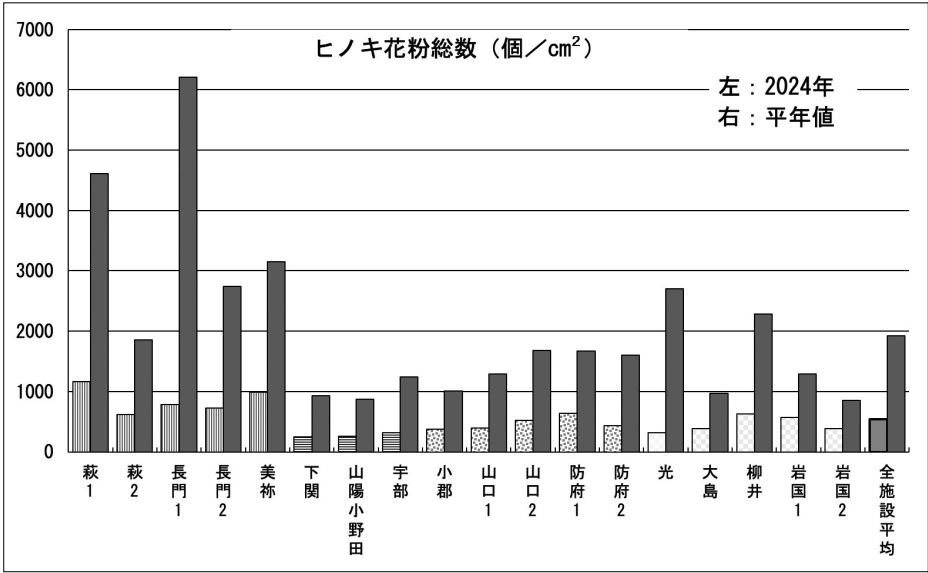


図3 測定機関別ヒノキ花粉総数（平年値との比較）

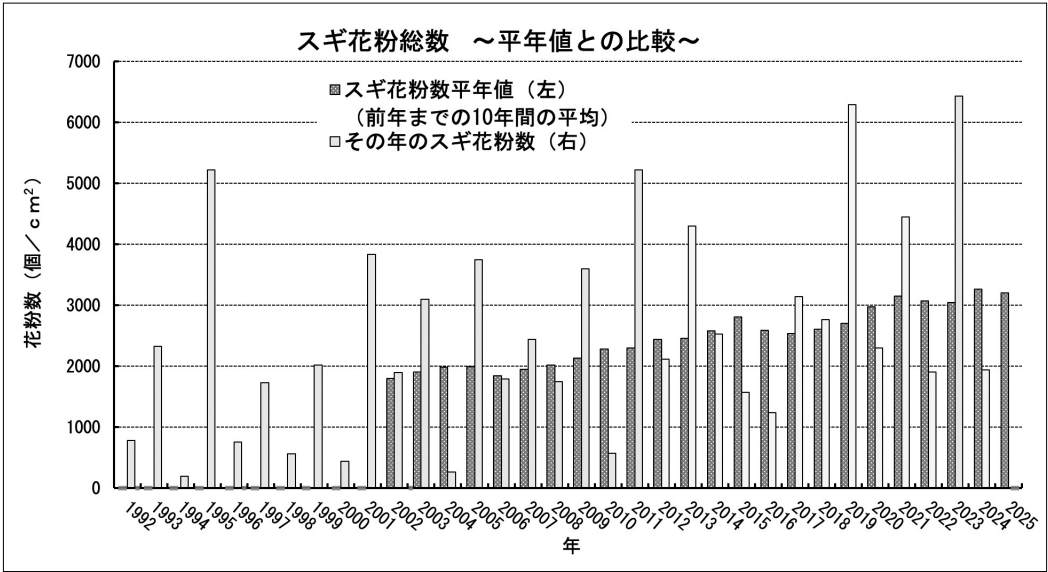


図4 スギ花粉総数と各シーズン前の平年値（2024年のシーズン終了時）